

ごとう通信

第 279 号

令和 6 年 3 月 1 日

毎年のように言いますが、寒いのが苦手な僕にとって2月は恐怖です。いっそのこと2月はなかったことにして、一年11カ月になってほしいと思うこともあります。ところが、今年はまだあまり苦手感なく過ぎてしまいました。寒い日が少なく、下手したら汗ばむような日もありましたし。個人的にはラッキーと思いましたが、猛暑の夏のイントロでなければいいなあと思います。

さて、先月は医療系の国家試験があり、受験生たちは今月の発表を待ちながら最後の学生生活を謳歌していると思います。僕たちの頃は国家試験が4月の初めにあり、3月は国

家試験の追い込みも追い込み。仲間たちとどういった問題が出るのか議論したり、どの解答が正しいのかを意見したりしていました。卒業式も謝恩会も型通り。まったく楽しめませんでした。あれから30年以上たったんですね。本当にびっくりです。

他の国家試験などもそうですが、年に1回しかない大勝負。受験する方は相当なプレッシャーがかかります。さすがに今ではありませんが、卒業して10年目くらいまでは国家試験で失敗する夢をたまに見ていました。朝起きて「俺、ちゃんと歯医者になったよなあ」と確認してホッとするなんてことも。



また今月も新たな歯医者誕生します。素敵な歯医者になってほしいです。

薬局と歯科医院

先月、ある学会に参加してきました。口腔ケアの学会なのですが、薬剤師の先生が大会長で、薬局と歯科の連携が一つのテーマでした。僕もシンポジストとして呼ばれていたのですが、年始からどういった内容にしようか考えてきました。うちもそうですが、歯科医院は投薬数が限られており、院内処方（診療室でお薬を渡す）が多いのです。もちろん院外処方（薬局で出してもらう）にしてもいいのですが、患者さんにとっては二度手間になってしまうこともあり、院内の歯